

「一村一食 ～人々の想いが動かす運動～」

<概要>

私の故郷の大分県では一村一品という各地域で最低一つの特産物を持つという運動が有名で、その運動は大分県だけではなく全国にも広がっています。例えば私の地元である大分県臼杵市ではカボスやふぐなどが一村一品で知られています。私は地元生まれのこのすばらしい運動をさらに発展させ、もっと全国の人に知ってもらう方法はないだろうかと思い一つの方法を考え出しました。それが一村一食という運動です。この提案は一村一品運動で得た各地域の特産物を使い、新しい郷土料理を創っていかうものです。



写真1 臼杵市内のカボスの木



写真2 臼杵市内のカボスの木(拡大)

<本文>

○オンリーワンを目指す

先ほど述べたように大分県内には一村一品運動によって各地域に一つ以上の特産物があります。その特産物を活かして料理を作る際に他の地域にない、オリジナリティーに富む料理を作っていく必要があります。また一村一食の「食」は食べ物の意味だけでなく「色」という意味もあります。つまり地元独自の「いろ」を一村一食運動で表現してほしいということです。そこで、次を提案します。

- ・ なるべく地元で取れる食材を使う。
- ・ 地元の歴史、特色が一目で分かるような造形の料理にする。
- ・ 日本の伝統料理や世界中の料理を参考にして地元の特産物の味を最も引き出せる料理を作り出す。
- ・ 手間はかかっても料理はすべて手作りする。(手作り感を出す)

世界でただ一つの料理が誕生するとき、その料理が地元の誇りとなり世代を超えて引き継がれていくことでしょう。

○住民参加型

一村一食運動に地元住民が参加することで、この運動が一村一品運動をさらに発展させた形になることができるでしょう。さらに住民の力は一村一食運動を生きた活動としてくれ、まちの活性化にもつながっていくことでしょう。

- ・ 料理を作るメンバーを地元住民から選出する。(住民が主体となって料理作りを行う)
- ・ 料理のアイデアやネーミングを一般公募する。
- ・ 料理を作成する場所(アトリエのようなもの)を公開して一般の人も見学できるようにする。
- ・ 試作段階の料理を学校給食で出し、子供達の見学を取り入れる。
- ・ 地元の各所に試食コーナーなどを設けて住民全体の意見を取り入れる。

そのようにして作られた料理は本当の意味で地元住民に愛されるものとなるでしょう。そして住民全体が直接的、間接的に料理作りに協力していくことで住民の雰囲気はよくなり、他のまちづくりの活動にも参加しやすくなることでしょう。

○地元から全国へ

一村一品、一村一食を全国の人にもっと知ってほしい。そうすればきっと日本中のまちがもっと元気になると思うから……。これはそのための提案です。

- ・ 一村一食運動で完成した料理を地元住民や観光客に知ってもらうためにイベントを開く。(料理評論家を招いての食の祭典など)
- ・ 駅や空港など観光客が利用する場所で料理の販売を行う。
- ・ 一年に一回、一村一食運動で完成した料理のコンテストを開催する。(日本一の料理を決める)

一村一食運動で作られた料理が観光客にも愛されるようになればさらにまちが活性化し、この運動が多く市町村に広がっていくことでしょう。そのようになった時、この運動から日本の味を生み出すことも可能だと思います。そしてこの活動が世界に広がっていけば新たなまちづくりの可能性が広がっていくことでしょう。

人々の故郷を愛する心が、まちづくりを動かす原動力です。一村一食運動により人々がそういった気持ちを持ち、育んでいけたら素晴らしいことだと思います。